

# 本校における教育研究会のあり方

研 究 部

# 本校における教育研究会のあり方

研 究 部

## (1) はじめに

附属学校における教育研究が、その内容を教育界へ発表し、教育界発展への参考資料を提供するという意味をもっている限り、「発表」という責任はある。

しかし、「発表」にとらわれて、ジャーナリスチックになったり、教室から遊離しては徒労に終るおそれがある。

したがって、現場での教育が教育研究会によって、たかめられ、次への段階を上るためのステップになるような形の教育研究会のあり方について、教官団として模索をした過程を紹介して、御参考に供したいと思う。

以下は本校における教育研究会へのとりくみ方を、校内研修会において、第一回教育研究会実施以後の報告書とその討議の内容を中心にしてまとめたものである。

## (2) 教育研究会のねらい

教育研究会をもつにあたって、本校では単なる形式的な発表会に対する批判は以前より強く、実質のともなう研究会の形態をどのような形にするかが、問題の焦点となっていた。

昭和48年9月28日に、研究部提案として  
「本校教官による公開研究授業をなるべく近い将来において実施する。」  
が教官会議に出された。

その提案のねらいは、次の2点であった。

- 1° 本校の教育内容の充実のため
- 2° 組織的などりくみを通して、本校のあり方を検討する

本校の教育体制には、次のような特徴がある。

中・高一貫教育（中から高への進学、教官の人事面等で中・高のワクがない）

男子校（中・高とも、共学制はとらない）

小規模校（中、1学年3クラス120名、高、1学年4クラス160名）

このような現状の中で、組織的な研究体制づくりを通して本校の問題点がとりあげられていく

と考えたのである。

以上のようなねらいと期待をもって、上記のような提案を行ったのであるが、それからは、教官会議を何度かくり返しなが、理解を深め協力をたかめていった。

結果として、昭和48年11月30日の教官会議において、賛成絶対多数で決定された。

研究部としては、「付属学校だから研究会を開くのは当然である」というような観念的なとらえ方ではなくて、自分自身の存在から見直そうとしたのである。

学問・教育の研究は本来、自主的・自発的なものである。生徒への教育的愛情のない教師集団に教育研究のミッションがおきるはずはないのである。

したがって、付属校であるというような条件だけで、研究を強制することでは内容の豊かな研究を期待することはできない。

討議の過程で出された問題点は次のようなものであった。

① 研究条件の不備（予算・設備等）

② 労働条件の問題

③ 共通テーマ設定の可否

（各教科で独自の研究は既に、すすめられており、その研究と共通テーマとの関連によっては、現在の研究が阻害されうるので、どのように調和をとるか。）

④ 日常の教育活動との関係

（教育実験は必要ではあるが、準備が不十分であったり、計画が過重であると、日常の教育活動が低下するおそれがある。）

⑤ 生徒の質の問題

（入試制度ともかかわる、本質的な問題であるが、生徒の質が他の学校と同質でなければ実験結果も資料としての意味がない）

以上のような点について話し合うことによって、今後、本校として解決すべき問題とその重要度が明らかにされてくることを期待したのである。

このように、研究の組織化の中で、49年度の教育研究会の方向が定められていったのである。

### （3） 49年度教育研究会開催までの過程

48年度に決定した提案事項を49年度に実施する方向に進めた。

49年度教育研究会の方向は、「教駒教育の原点に立ち返って」今後の教育推進のエネルギー源をくみあげることがねらいとした。

「教育の原点」とは「教室」であると考えたので、その中から問題をほりおこせば、本校の特殊性をこえて、全国的な意味で教育の当面する共通問題にぶつかるものと予想した。

まず、国民の教育権の問題の手がかりとして、保護者に対しては

「附属駒場教育に関するアンケート」（別表1）

つぎに、教官に対しては、教科指導の問題点をとりあげるために

「カリキュラムに関するアンケート」（別表2）

の回答を依頼した。保護者よりの回収率は87%の高率であって、保護者の教育に対する期待の大きさに驚いた次第である。

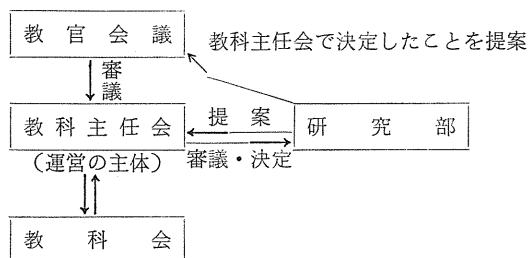
（回収に当っては無記名で担任を通さなくとも郵送できるように、学校宛の住所を印刷した封筒を渡し、回収そのものも自由にして、回収状況も保護者の教育に対する関心の程度を知る手がかりの一つとした。）

以上2つのアンケートの整理だけでも、時間と労力の消費は大変なもので、今回はこれ以上の調査はおこなわないことにした。

この2つのアンケートを通し、本校の教育についての再点検をすることにしたのである。回収率の高かったことは、結果についても、相当の期待がもてると思っている。

以上のような準備を行う一方、本校ではいままで、個人研究、教科ごとの研究では可成りの成果をあげ、注目されているものも少なくないし、教授内容も革新的で、卒業生から卒業後も役に立つという評判の高い教科も多い。

このような教師の力を組織化すれば、自動的に教育研究は進むものと判断した。したがって、研究部は研究組織を研究推進のルールの上に乗せることが仕事であると考え、その準備・運営の組織は下図のような形をとった。



以上のように、教科主任会が企画・運営の中心となり、教科会での主体的な討議によって、計画の具体化をすすめた。

これは、教科指導の中心は教科会にあると考えたからである。一人の教師の恣意的な計画や対外的な活動だけで、校内には影響のない、いわゆる、教育研究を封じようとしたのである。

現場の理解の得られない研究では、広く、一般の学校の参考などになるわけではない。

以上のような考え方で、教科会の活動をたかめるような形で準備をすすめた。

以下に、その記録をあげておく。

1. 48. 9. 28 教官会議に提案

「本校教官による公開研究授業をなるべく近い将来において実施する。」

2. 48. 11. 30 教官会議にて決定

賛22, 反2, 白7 (32名出席)

3. 48. 1. 10 教官会議に提案  
「研究会運営の形態は  
研究部（研究会係）が立案，教科主任会が審議・運営の中心となり，教科会議の討議を経て実施する。」  
以上の通り決定
4. 49. 4. 26 第1回教科主任会  
運営方法の検討，今年度の研究会のもち方についてのアンケート依頼
5. 49. 5. 17 第2回教科主任会  
・各教科会におけるアンケート結果の分析  
・教科主任の研究会における位置づけの確認
6. 49. 6. 14 第3回教科主任会  
研究会の形式決定  
中学全クラス対象公開授業2時間  
父兄の参観，以後父兄との討議  
以上の経験をもちより，午後，教官の研究討議
7. 49. 7. 19 第4回教科主任会  
公開授業の各教科毎の時間割当決定  
研究会の資料作成（アンケートの整理）  
アンケート整理担当 カリキュラム関係（各教科主任）  
委 員 父兄対象（各教科1名ずつ）
8. 49. 9. 9 第5回教科主任会  
カリキュラム調査依頼  
アンケート用紙内容検討
9. 49. 9. 20 父兄へのアンケート用紙配布
10. 49. 9. 27 教官会議  
日程案を審議・決定
11. 49. 10. 5 教官会議  
研究会運営の役割分担決定
12. 49. 10. 7 第6回教科主任会  
アンケート結果検討  
問題点を整理し，研究会の討議のテーマを作る。
13. 49. 10. 14 教官会議  
中間報告  
・各教科の授業内容  
・アンケート整理の状況

についての報告を行なう。

14. 49. 11. 3 第7回教科主任会  
最終打合せ。

15. 49. 11. 8 教官会議  
最終打合せ。

交通関係のストライキのため、予定は11. 15であったが11. 18に延期、さらに、再延長して  
11. 25実施に決定。

16. 49. 11. 25  
教育研究会実施

以 上

当日までの本校の動きは上のような状況であった。

#### (4) 49年度教育研究会当日の運営について

当日のスケジュールについては(別表3)の通りであるが、大別すると3部に分けられる。

##### 第1部

###### 公開授業

参観者 328名(360名中)で出席はきわめて良好である。

現在、校外における学習が社会問題となっている、その主たる原因は学校における授業に対する不信感であると思われる。

学校における学習と塾・家庭教師による学習とはどちらがうのか、そのねらいはどこにあるのかを具体的に参観を通して、父兄の理解を得ようとしたのである。

本校においても例外でなく、中学の段階から、塾や家庭教師につく生徒がふえており、父兄の良識に訴える必要がある。

とくに、これが学校の生活に影響をするときには問題としなければならないと思われるので、その点を考えたいと思った。

##### 第2部

###### 父兄と教師との話し合いの会

自分の子供の学習成績を向上させるためにはどうしたらよいか、という形でのみ論じあうのではなくて、(別表1, 別表4)にあるような「教科指導に関する調査」

(附属駒場教育に関するアンケート)

の結果を各人に配布してその中から、問題提起をして、本校の教育のあり方について話し合いをしたいと考えた。

とくに、つぎのような点を取りあげようと考えた。

① 本校の学習指導に対する信頼度

② 中・高一貫体制の教育への期待

③ 遅進生徒に対する処置

④ 校外における学習について

これらの点を授業を見た感想を通して、話し合えば、具体性が出てくるものと期待したのである。

時間は1時間半で、各学年毎に分かれて3会場へ集まり、教官も全員が3会場のどれかに所属して、話し合いに参加した。

### 第3部

#### 教官の研修会

午前中の経験の結果、今後の本校の研究方向を模索することをねらった。

その結果、来年度以降の研究テーマは本校の特色である中・高一貫教育を生かして、つぎのように決定した。

#### 共通研究テーマ

「中・高教育の接点における問題点をさぐり、具体的な対応のプランを創造することを目指す」

44年中学、45年高校の指導要領が告示されたが、現場においては問題がきわめて大きい、とくに、中・高のつながりで問題のあるところが少なくない。

幸い、本校では中・高一貫であるので、問題点の提起や、その修正、対策についての実験がやりやすいという点があるのでその点を焦点として、問題を取りあげ、拡大して、中・高6ヶ年の一貫カリキュラムを完成することをめざしたのである。

(補)

さらに、P・T・A（本校では駒場会という）の協力もつぎの2点で得た。

#### ① 受付、接待

今後のこともあるので、その準備のために、場所の設定、人数、時間等について考える資料を作るため、総務委員会より、6名の協力を得た。

#### ② 会報活動

編集委員会（駒場会報作成の委員）より中学関係父兄9名が各会場の様子あるいは、父兄の感想をインタビューしたりして、研究会の状況を参加しない高校の父兄にも会報を通して紹介することに努力した。

(別表5)

以上のような活動が当日行われて、尚来賓としては、前校長前東京教育大教授、阿部又三氏の来駕を得て、研究討議に参加をして頂いた。

当日のことについて、最後に、その記録をのせておくことにする。

[研究会の記録]

1° 午前の会について

- ① 時程：役員は8時20分、他は8時30分では時間帯が早すぎる、後にずらしてはどうか。
- ② 参加のし方：自分の子供以外の場合も見せてもらいたいとの要望あり。可能である。
- ③ 会の性格：教師間で話しあえるので、今後、広く、他校教師も含めた、公開授業に発展させることができる。
- ④ 要望：保護者会のときにも、授業参観をさせて欲しい。

## 2° 午後の会について

- ① 時程：時間の長短よりも、話の進め方に問題あり。
- ② 会のもち方：アンケートのまとめを報告するのではなく、問題点を出すよう研究部で要請したが、十分果されなかった。問題の提起がその後の討論の時間内でテーマにできるような、事前の十分な取組みが必要。

## 3° 今後の取組みの方向

- ① アンケート結果の活用を掘りさげる調査が必要である：指摘された問題点に関してアンケートの結果を土台に、さらに、問題点の掘りさげをねらったアンケートを行なう。
- ② 保護者への報告をすべきである。  
「アンケートの詳しい結果」は教官会議の了解が得られれば発表すべきである。
- ③ 来年の公開研究会
  - i 時期は11月20日前後の金曜日
  - ii テーマは「事後指導・評価」「厳しさ」「塾通い」
  - iii 会の性格は、教師間で研鑽しあえる公開授業。

- ④ 三学期の研修会テーマ  
「自主編成」とりわけ「中・高カリキュラムの接点」

## 4° 午後の研究会の討議の時間に出た意見

- ① 試験後の事後指導・評価をとりあげるべきである。  
理由：600に近い保護者の声（したがって生徒の声）があり、個々人が自分の学力の弱点を把握できない悩みを訴えている。
- ② 駒場の教師中には「厳しさが無い」という多くの声をどううけとめるか。
  - a. 授業内容が緻密でなく、雑であるという批判だ、教材研究の準備が不十分である。
  - b. 出席をとらないような教官の姿勢  
授業参加者がクラスの1/3になってもそれを打開しないような教官の姿勢  
ざわついても注意しない  
など生活指導面における教師の姿勢が問題である。
  - c. 教科指導の不十分さと生活指導の不十分さと二側面がある。この二つの側面を充実すべきである。

研究部長——学習内容・学習指導の問題が十分とりあげられなかったのは残念である。



教官のカリキュラムに関するアンケート結果では、どの教科も「自主編成」の必要を感じている。

三学期の研修会で「各教科のカリキュラムの実態と問題点」をとりあげたい。

以上

## (5) 実施後の反省

### (A) 運営に関するもの

- 1° 組織については現在の組織を用いる場合と新たな実行委員会を作る場合とがあるが、今回は前者をえらんだ。この方が現状改革への問題提起になりやすく、適切であった。
- 2° 全教官の協力がなくてはできないものであったが、予想をはるかにこえる協力があつた。これは研究部としても、感激するだけでなく、今後、組織化への道づくりをする必要に迫られている。
- 3° 父兄の関心も高く、アンケートの回収・会報へのインタビューの結果より好印象と期待をもっているものと思われる。
- 4° 今回のねらいとして、教科会の活動が活潑になるように、期待していたが、まだ、十分とはいえないようである。

### (B) 教育内容に関するもの

- 1° アンケートの結果については、研究部の判断ではなく、全教官の討議の結果によって、共通の認識が生じることを期待しているが、それまでの機会が作られていないことは残念である。

校内研修会のみならず、各パートの話し合いの資料にしてほしい。

#### 2° 保護者へのアンケートについて

この結果についての教官側の対応を父兄は期待している。今後、対応はなるべく速やかに考えるべきであると思う。

とくに、次の諸点について、対策や方針を示す必要がある。

#### (ア) 中・高一貫教育体制の推進

##### (イ) 教科指導の内容・方法・姿勢について

##### (ウ) 遅進生徒に対する処置

##### (エ) 試験の事後指導について

##### (オ) 校外における学習について

#### 3° カリキュラム調査について

(別表6)の集計の結果より、教官の共通の問題点として、とりあげることのできるものは

##### (ア) 教材の自主編成

##### (イ) 6ヶ年一貫カリキュラムの作成

である。これらの実現の方法はいろいろ考えられるが、全教官がとりくみやすい方法としては、焦点をしぼって、具体的な形でとりあげるべきで、それが50年度の共通テーマとして決定されたことである。

#### 4° 入試制度について

教育研究、教育実習に関して、さけて通ることのできないものに、生徒の質の問題がある。アンケートの中より、その意見をとりあげると

「本校に限っていえば、入試改革が先決であって、それを抜きにした教育研究は世間のもの笑いになるのがおちである。」

という声に代表されるように、付属本来の姿になるように、生徒の質をかえることを期待する声がある。

しかし、現状においても

「相当に程度の高い生徒に対してこそ、教育の第一次実験が行えるので、教育プランを直ちに、一般の学校に適用する混乱を防ぐためにも、ある程度の質をもった生徒を集める必要がある。」

このようなことが必要であり、可能であるということなのである。

したがって、各教科の研究の方向に対して、生徒はどうあるべきかという形で考え直すべきである。

#### 5° 勤務条件について

例えば、校内研修会の時間をとるにしても自由な討議をするには、時間が不十分である。できれば2～3日の合宿を行って、方向を出すことがよいと思う。

このようなことが困難な理由は2つある。外的要因と内的要因すなわち、制度上の問題と教師の主体性の中にある問題である。後者については、もっと大胆な討議によって、時間を作り出すことができる。

#### 6° 外部との関係

本学では、付属は大学本部直属であって、学部付属になってはいない、このことは自由にすべての学部と交流して、指導・意見の交換ができるはずのものであるが、現実には必ずしもそうではない。

さらに、大学以外のレベルの組織とも形式的には各種組織に入っているが、実質的な活動となると可成り、教科・個人によって差異がある。

このような点を組織としてどうするかが大きな問題となっている。

以上、今回の教育研究会実施にあたっての反省事項をのべておいた。

## (6) む す び

学問・教育の自由・主体性をのばすための組織とはどのようにあるべきものか、また、その運

営はどうあるべきか、という問題は大学の自治にもつながる大問題であると思う。

自由に流されて独善に走るか、そうでなければ、組織化のあまり、空疎な教育界の行事に終るか、その調和は極めて困難なものである。

これを打破する方法の一つとして、教師の教育に対する情熱があると思う。これが、問題解決のエネルギーではないかと思う。

幸い、本校にはそのようなエネルギーは、学校の民主的運営と生徒との交流によって保たれており、これを突破口にして、一つのステップを踏みだすことができる。

#### 50年度の研究の共通テーマ

「中・高教育の接点における問題点をさぐり、具体的な対応のプランを創造することを目指す。」はきまった。われわれは、この目標に向って、前進することを決めたのである。

来年度以降は誌上を通して、具体的なプランをお送りすることをお約束して、教育研究会誕生の一過程を御報告したものである。

別表 1. 附属駒場教育に対するアンケート

附属駒場の教育について

(回答用紙)

校 種	中 学 高 校
学 年	1 年 2 年 3 年

回答の記入のし方

- ・各質問ごとに、述べてあることが、その通りであるとお考えのときは  の中に○印を、または違うとお考えならば×印を、どちらとも言えないまたは判断できないときは△印を記入して下さい。
- ・質問グループの後に13か所自由回答らんの余白が作ってあります。ここには質問に関連して、お気づきになったこと、学校へのご意見等自由にお書き下さい。

該当する文字を○で囲んで下さい。

① 本校の印象について

世間では本校をエリート校と呼び、受験校、大学予備校などという人もあるそうですが、貴方ご自身はどうお考えでしょうか。(下の項目から一つを選び出すのではなく、一つ一つ質問ごとに○×△のどれかを記入して下さい。以下どの質問についても同じです。)

- 1-1  本校はエリート校である。
- 1-2  本校は大学受験教育を目指す学校である。
- 1-3  本校は世間なみの普通の学校である。
- 1-4  本校は生徒の個性を尊重し生徒自主性を伸ばす教育を目指している。

関連してご意見ご希望を自由にお書き下さい。

② 中高6年制の教育について

中学・高校を通して6年一貫教育を行い得る本校の実情についてどうお考えでしょうか。

- 2-1  本校では高校進学は保証されているけれども、その他の面で中学・高校一貫の教育体制を充実すべきである。
- 2-2  中学・高校各3年の教育計画を独立させて、それぞれの段階で内容を充実させ効果を挙げるよう努めるべきである。
- 2-3  6年制で生徒に有利なことは高校入試に煩わされなくて済むことであるが、このために出来る余裕で正規の課程以外の科目を設けて、生徒の教養を高めることを目指すがよい。
- 2-4  上の項目のような余裕で、高校課程の内容を繰り上げて中学で学習させ、将来大学受験に有利な態勢にすすめるのが良い。

ご意見ご希望等

③ 本校教育の改善点について

本校の教育の現状から見て、改善の必要を強く感ずるのはどんな点でしょうか。

- 3-1  「教科の指導のし方」について改善すべきである。  
3-2  「生徒個々の学習に関する学校の指導」について改善すべきである。  
3-3  「生徒の悩みに関する学校の指導」について改善すべきである。  
3-4  「生徒の教科外の生活面に関する学校の指導」について改善すべきである。  
3-5  「生徒の学校外の生活面に関する学校の指導」について改善すべきである。  
3-6  子供の教育は学校に委せたい。

ご意見ご希望等

④ 授業について

学校の様子については生徒を通してまたはその他の接触によって知らされておいでのことと  
思いますが、本校のふだんの授業の様子について感じておいでのことをおきかせ下さい。

- 4-1  授業内容が高すぎる。もう少し程度を低くして世間並にすべきである。  
4-2  本校の生徒の能力に較べて内容程度が低すぎる。もう少しあげてもよいと思う。  
4-3  教官の授業中の態度は生徒に対して厳しい。  
4-4  授業時は自由な雰囲気が良いが生徒を甘えさせ過ぎるような放任的な授業はあらためてほしい。  
4-5  家庭学習の要求（宿題、レポート提出、予習、復習等）が多過ぎるようである。

ご意見ご希望等

⑤ 生徒の学力差に応じた指導について

- 5-1  成績の優劣は指導の良否、集団の質に無関係に生じるものである。  
5-2  現状の傾向は、成績の良い者にあわせた授業だからおくれた生徒が犠牲になっている。

- 5-3  授業はおくれた生徒が出ないように指導すべきで、そのために進んだ生徒が少々足踏みするのは仕方ない。
- 5-4  本校では遅れた生徒に対する補習的な指導が行き届いている。
- 5-5  現状の傾向は成績のおくれた生徒を配慮した授業が進められているので、進んだ生徒が犠牲になっている。
- 5-6  生徒はおくれないように勉強すればよいのだから小数のおくれた生徒のために他の生徒の学習を停滞させてはいけない。
- 5-7  本校では進んだ生徒に対する助言指導が行き届いている。

ご意見ご希望等

⑥ 試験について

- 6-1  本校では試験の回数は少なすぎる。
- 6-2  各科目ごとに試験をもっとやってほしい。
- 6-3  試験をへらしてレポートにしてほしい。
- 6-4  試験，レポートをへらして，生徒がのびのびと学習するようにさせて欲しい。
- 6-5  試験の講評及び事後指導を徹底させて欲しい。

ご意見ご希望等

⑦ 成績通知について

- 7-1  子供の生活をのびのびとさせることが大事であるから指導の必要な場合を除いて，一般には成績の通知は不要である。
- 7-2  試験の結果や学期成績，学年成績等を点数で知らされるだけでは子供の学習の様子がよくわからない。点数にかわるもっと別の良い方法を考える必要がある。
- 7-3  子供の成績としては，学級や学年の中での席次や位置づけなどはどうでもよい。どこが学習の弱点か，今後学習をどう改めていけばよいか等のことがわかればよい。
- 7-4  成績通知を見て，子供に注意を与える場合はどんなときですか。  
(たとえば，どんな科目の成績が悪いと気になりますか)

⑧ 進路指導について

高等学校における進路指導は生徒指導の重要な一環ですが、このことについておきかせ下さい。

現生の学年は 中  年 (中・高いずれかに○  
内に学年を記入して下さい)

8-1 現在希望進路はきまっていますか。

- イ.  本人はきまっている。
- ロ.  親としてはきまっている。
- ハ.  本人、親とも合意してきまっている。
- ニ.  全然きまっていない。

その他, ご意見欄

8-2 進路をきめる時期は何時頃がよいと思われませんか。(○印でかこんで下さい。)

中 1. 中 2. 中 3. 高 1. 高 2. 高 3.

8-3 進路のきめ方はどのようにさせるおつもりですか。(どれか一つに○をつけて下さい。それに含まれないときは下のにおかき下さい。)

- イ.  子供の希望にまかせる。
- ロ.  親の希望にそわせるように話し合う。
- ハ.  親の希望のワク内で本人の希望にまかせる。
- ニ.  学校の先生方の指導にまがせる。

その他, ご意見欄

8-4 学校の進路指導について

- イ.  もっと積極的に進路指導をして欲しい。

- ロ.  現在のままでよい。
- ハ.  学校はあまり進学についてふれてもらわなくてよい。
- ニ.  担任によって差があるので、学校、学年等でまとまってやってほしい。

その他

8-5 学校の受験準備指導について

- イ.  受験勉強は自分でやればよいから学校でやらなくてよい。
- ロ.  現在の程度の指導はしてほしい。
- ハ.  もっと受験準備指導をしてほしい。

受験準備指導の時期について

- イ.  なるべく早い方がよい。
- ロ.  高2文化祭以後がよい。
- ハ.  高3になってからでよい。

その他、ご意見欄

8-6 受験準備が現在の高校教育を歪めているといわれていますが、それについて。

- イ.  歪めていると思う。
- ロ.  それほどでもないと思う。
- ハ.  歪めていない。

・歪められていると思う方は歪められている面はどんな点だと思われますか。

8-7 受験が現在の高校生活に大きな影響を与えているといわれますが、子供がその中でおくる青春時代に何を体験させたいかお聞き下さい。



父親として

母親として

受験と学校生活について、上のどれにも含まれないことがあればお書き下さい。

⑨ 学校外の学習について（予備校，塾，家庭教師等）

9-1  自分は現在子供にそのような学習をさせている。

9-2  今後適当な所があれば自分の子供も行かせたい。

9-3  この学校でまともな学習をうけていればそのような特別の学習をさせる必要はない。

・教科によってちがう場合には下の（ ）にお書き下さい。

必要のない科目は（ ）

必要のある科目は（ ）

ご意見ご希望等

⑩ その他

本校の教科の指導または教育全般について、どんなことを希望されますかご意見があればお書き下さい。（たとえば、親の教育に対する学校への希望，学校行事に対する感想，週休二日制についての感想等）

別表 2. カリキュラムに関するアンケート

カリキュラムに関するアンケート

( ) 科 担当学年 \_\_\_\_\_

教 官 名 \_\_\_\_\_

No. 1 の作成に関して、次のようなことが問題になると思いますので、それについて、御意見をお聞かせ下さい。

記入法 には賛成または実施の場合は○、そうでない場合は×、どちらでもない場合は△を記入して下さい。御意見欄には○、×であらわせない内容を記入して下さい。

以上、御多忙のところ申しかねますが、教育研究会の資料として、なるべく充実させたいと思いますので、御協力をお願いします。

〔1〕教科書の使い方について（今年度）

1.  教科書だけを使って授業している
2.  教科書以外に市販の副教材を使っている

○の場合お答え下さい。

- ア.  授業中に教材として指導する
- イ.  授業中には質問をうける程度で自習用としている

3.  副教材として自主製作のものを使っている

○の場合お答え下さい。

- ア.  授業中に教材として指導する。その場合教科書との時間の割合は
- イ.  授業中には質問をうける程度で参考として用いる

4.  教科書は全く使用しない（授業中）

教科書の使い方についての御意見をお聞かせ下さい。

〔2〕新指導要領について

新指導要領が実施されて、高校でも2年目になりました、実践の体験等から御意見をお聞かせ下さい。

1. 改善されたと思われる点をあげて下さい
2. 改善されていないと思われる点をあげて下さい
3. 本校が実験学校として、指導要領改善のためにはたすことができます点がありますか  
 できる       できない

できるとすればどんな点だと思われますか。

4. 全体として前回よりも前進したと思われますか

思 う       思わない

御意見欄（〔2〕の中のどれでも結構です）

〔3〕教材の自主編成について

教育改革は世界的な流れですが、その中で現場の教材研究は各方面から注目されており  
ますが、とくに自主編成の問題についておうかがいします。

1.  本校では教材の自主編成が必要である

○の場合御記入下さい（理由について）

- ア.  生徒の質が高いので教科書だけでは時間が余るから
- イ.  実験学校として教育界に対して資料提供の責任があるから
- ウ.  その他の理由

×の場合の理由

2.  自主編成はやりたいができない

○の場合、その理由について御記入下さい

- ア.  勤務時間、条件等で無理ある
- イ.  研究費が不十分で準備できない
- ウ.  校内の研究組織が整備されていない（教科内、他教科）
- エ.  校外の研究組織との連絡が不十分

その他、自主編成を進めていくうえでの御意見、御要望があれば御記入下さい

3.  今後本校としては教材の自主編成を学校としてとりあげるべきである

○の場合その方向について、御記入下さい

A 対象について

- ア.  進んだ生徒を対象とする
- イ.  一般の生徒を対象とする
- ウ.  遅れた生徒を対象とする

B 指導要領との関連について

- ア.  指導要領のワク内で考える
- イ.  指導要領のワクは無視してよい

C 研究組織について

- ア.  本校教官のみによってやるべきである
- イ.  大学、他の研究団体の協力を得るべきである

その他の御意見をお聞かせ下さい

×の場合はその理由をお聞かせ下さい

[4] 6ヶ年一貫カリキュラムについて

本校の研究テーマとしてあげられましたが、学校としてカリキュラムができてはいないと  
思います。教育研究会を機会に推進していくことについて、お聞かせ下さい

1.  賛成である      2.  反対である

推進していくための問題点があります。以下にその点をいくつかあげましたのでお聞かせ  
下さい

- ア.  6ヶ年一貫についての理念をもっていない
- イ.  高校で1学級入学させることがあるので、本腰を入れてとりくめない
- ウ.  教科内の協力がえられない
- エ.  勤務条件が実施するには無理である

その他

3.  6ヶ年一貫カリキュラムについては考え直すべきである（やめる方向で）

全般的な御意見があればお書き下さい

別表 3. 日 程 表

1. 期 日 11月10日 (金)
2. 参加者 中学校保護者 附属駒場中高全教官
3. 場 所 附属駒場中学校
4. 時 程
 

午前 8:30~9:20	授業第1時限	}	授業参観
9:30~10:20	授業第2時限		
10:40~12:00	学年ごとに保護者・教官の話し合いの会		
5. 時間割

	組	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
授 業 第 1 校 時 8:30~9:20	A	保健体育 川 畑 教 官 体 育 館	英 語 教 官 辻 教 官 2 A 室	理 科 教 官 松 重 教 官 生 物 実 験 室
	B	国 語 教 官 田 勝 教 官 1 B 室	美 術 教 官 白 木 教 官 美 術 室	技 術 教 官 佐 野 教 官 技 術 室
	C	英 中 村 教 官 1 C 室	国 語 野 教 官 2 C 室	国 語 田 教 官 3 C 室
授 業 第 2 校 時 9:30~10:20	A	理 科 教 官 田 牛 教 官 地 学 室	社 会 教 官 小 沢 教 官 2 A 室	英 語 教 官 久 保 木 教 官 3 A 室
	B	社 会 教 官 神 藤 教 官 社 会 科 室	理 科 教 官 大 道 教 官 物 理 実 験 室	保 健 体 育 教 官 久 保 教 官 校 庭
	C	数 学 教 官 星 野 教 官 1 C 室	数 学 多 教 官 喜 多 教 官 2 C 室	社 会 教 官 林 教 官 3 C 室
学 年 会 10:40~12:00		音 楽 室	美 術 室	中 学 図 書 室

別表 4. アンケート結果（父兄）

教科指導に関する調査（回答の集計）

I 調査の概要

1. 調査実施の時期 昭和49年10月

2. 調査の対象 附属駒場中学・高校の全保護者

3. 調査の目的

本校の指導の現状と今後の改善の方向について、保護者の飾りのない意見、希望をまとめ、今後教官の同問題に関する検討に貴重な資料を得たい。

4. 調査の方法

① 調査票を各家庭に届けて回答を求めた。

回答のしかたは、所定の封筒に入れて厳封し、生徒の手に託して学校に届ける。または直接学校に郵送する。

② いずれの場合も、無記名とし封筒には学年と中高別のみ記す。

③ 内容は10項からなる。

イ 項目は小問からなり、小問ごとに○×△を記す。

ただし、問8の一部はいくつかの分枝から選択する形式の問が混った。

ロ 項ごとに終りに自由回答欄を設けて、関連する意見・希望等の記入を求めた。

5. 回収の状況

	学 年	回答数（人）	在籍生徒数 （人）	回答率（％）
中 学	1 年	117	119	98
	2 年	110	117	94
	3 年	98	117	84
高 校	1 年	138	160	86
	2 年	147	165	89
	3 年	118	160	74
総 計		725	838	87

II 調査回答の集計

1 記号回答の集計

○印 その通りである ×そうは思わない △どちらともいえない

	内容	総計			中			高			校	
		○	×	△	○	×	△	○	×	△		
1. 本校の印象	1 エリート校である	575	59	77	17	261	36	4	314	35	41	13
	2 受験教育をめざす学校である	145	387	177	19	50	77	6	95	195	100	13
	3 世間なみの普通の学校である	87	521	99	21	38	241	40	49	280	59	15
	4 個性尊重・自主性を伸ばす教育をめざしている	591	14	112	10	280	4	39	311	11	73	8
2. 六年制	1 中高一貫体制を充実強化せよ	504	55	145	24	255	13	7	249	42	95	17
	2 中高別独立した教育をせよ	134	390	172	29	36	208	73	101	182	99	21
	3 課程外の課目を設け教養をたかめるとよい	401	145	163	19	182	67	4	219	78	91	15
	4 課程を繰り上げ大学受験を有利にするとうよい	237	295	175	21	146	101	72	91	194	103	15
3. 改善すべき点	1 教科の指導	90	193	405	40	34	88	15	56	105	217	25
	2 生徒個々の学習指導	178	152	355	43	72	62	17	106	90	181	26
	3 生徒の悩み指導	173	160	349	46	64	63	17	109	97	168	29
	4 教科外生活面の指導	201	194	291	42	72	87	17	129	107	142	25
	5 校外生活面の指導	79	299	301	49	33	135	17	46	164	161	32
	6 学校に委せたい	346	216	139	27	172	89	58	174	127	81	21
4. 授業	1 内容程度が高過ぎる	11	560	135	22	7	263	50	4	297	85	17
	2 内容程度が低過ぎる	115	334	253	26	76	136	108	39	198	145	21
	3 教官の授業中の態度は厳しい	16	407	274	30	7	185	125	9	222	150	22

	内 容	総 計				中 学				高 校			
		○	×	△	ナシ	○	×	△	ナシ	○	×	△	ナシ
4	生徒を甘え過ぎさせぬようにせよ	325	165	210	28	141	104	7	184	92	106	21	
5	家庭学習の要求が多過ぎる	22	530	153	23	4	265	4	18	265	101	19	
1	指導や集団の質には無関係に学力差はできる	185	399	121	23	78	185	59	5	107	62	18	
2	遅れた生徒が犠牲になっている	47	369	279	33	17	176	124	8	30	155	25	
3	進んだ生徒の足踏みは止むをえない	161	293	248	26	74	137	107	7	87	141	16	
4	遅進生の指導が行届いている	17	334	340	37	6	135	171	13	11	169	24	
5	進んだ生徒が犠牲になっている	13	406	275	34	6	175	134	10	7	141	24	
6	遅進生徒のため他を犠牲にしてはいけない	469	55	181	23	226	22	70	7	243	111	17	
7	進んだ生徒の指導が行届いている	90	116	486	36	28	54	232	11	62	254	25	
1	回数が現状では少ない	287	223	194	24	156	83	81	5	131	113	19	
2	もっと多くして欲しい	264	234	199	31	140	89	89	7	124	110	24	
3	試験を減らしてレポートにせよ	37	389	263	39	17	172	125	11	20	138	28	
4	のびのび学習させる	55	455	182	36	18	216	79	12	37	103	24	
5	講評や事後指導を徹底せよ	598	47	61	22	263	34	25	3	335	36	19	
1	成績通知は不要である	20	630	46	30	13	286	18	8	7	28	22	
2	点数に代わるもっと良い方法を与えて欲しい	268	237	198	25	118	112	90	5	150	108	20	
3	席次でなく学習の弱点と補習の方向を	314	211	180	23	138	99	82	6	176	98	17	
1	本人はきままっている	283	248	80	117	91	162	25	47	192	55	70	
ロ	親としてはきままっている	268	250	77	133	96	146	35	48	172	42	85	
ハ	本人と親が合意の上できままっている	237	323	69	99	74	182	24	45	163	45	54	
ニ	全くきまっていない	228	314	58	128	149	109	25	42	79	33	86	



	内 容	計						中						学						高						校					
		○		×		△		○		×		△		○		×		△		○		×		△		○		×		△	
		中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高
8-2 時期	進路をきめるべき時期	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
8-3	進路の決め方	12	10	72	197	360	66	11	9	7	54	128	114	9	4	3	3	18	69	246	57	7									
8-4	学校の指導	396	65	28	239			138	44	16	127			258	21	12	112														
8-5 受験指導	子供の希望による	57	160	32	479			13	77	17	218			44	83	15	261														
	親の希望に添うよう話合う	238	118	21	351			131	55	12	127			107	63	9	224														
	親のわく内で本人の希望を活かす	72	110	64	482			41	45	35	204			31	65	29	278														
	学校の指導に委せる	231	81	223	193			77	36	135	77			154	45	88	116														
8-6 その他	積極的に指導して欲しい	225	95	248	160			66	27	153	79			159	68	95	81														
	現在のままでよい	16	337	130	245			5	148	79	93			11	189	51	152														
	ふれて貰わなくてよい	197	86	228	217			71	35	135	84			126	51	93	133														
	学校・学年でまともやって欲しい	31	390	97	210			12	181	57	75			19	209	40	135														
8-7 教員の歪	自分でやればよい	341	75	198	114			112	25	138	50			229	50	64															
	現在程度の指導は必要	258	81	219	170			91	29	136	69			167	52	83	101														
	もっと受験準備指導を	227	140	170	191			167	53	45	60			136	111	34	122														
	なるべく早くから	399	123	67	134			102	99	64	60			232	75	22	74														
8-7 教員の歪	高2文化祭以後	133	295	87	213			4	184	39	97			31	196	23	153														
	高3以後でよい	182	224	109	213			74	107	65	79			108	117	44	134														
	歪めている	428	129	57	114			185	56	37	47			243	73	20	67														
	それほどでもない	120	222	130	256			51	96	81	97			69	126	49	159														
	歪めていない																														

	内	容	総計						中			学			高			校						
			○		×		△		ナシ		○	×	△	○	×	△	○	×	△	ナシ				
			310	233	42	143	106	133	23	63	204	100	19	80	204	100	19	80	204	100	19	80		
9	1	現在させている	275	166	165	80	207	162	68	59	148	113	98	44	148	113	98	44	148	113	98	44	148	
	2	適当な所があれば行かせたい	222	166	168	172	85	78	83	79	137	88	85	98	85	98	88	85	98	88	85	98	88	98
	3	その必要はない																						

## 教育研究会に参加して

（編 集 部）

初冬の冷たく抜ける様な空に、黄ばんだわくら葉が舞っている。早朝にもめげず、公開授業に集まった参観者は、瞬く間に各教室を埋め、熱心な眼差しが授業に注がれた。やはり英数国に関心度は高く、特に国語は脚光を浴びて、その素晴らしい授業は、他教科の参観を忘れさせる程、父兄を魅了した。体育のバスケットボール。理科実験、社会のスライド授業。生徒の個々の能力差が際立たない授業は一様にリラックスして、楽しそうに見えた。

10時40分。父兄と先生の話し合いの会が始まる。会場に当てられた音楽室は、アンケート回答率98%という驚異的数字に支えられた父兄の熱気でむせる様だった。

先ず教頭先生の「父兄という素人目から見て、我々のやり方を批判して頂き、他山の石とし深めていきたい。」という意味で始まる御挨拶で幕は開き、公開授業、アンケート担当の諸先生から関連内容について懇切丁寧な御説明があり、続いて質疑応答に入ったが、既に余す所時間は幾ばくもなく、画期的な研究会としては、あまりにも時間不足の感があった。「人間教育の充実」「学習の内容量」等、切実な意見が父兄側から出たが、いづれも単発的で、核心をつくに弱く、次々に新たな問題提起を生む発展性はみられぬまま、30日の父母会に持ち越すという事になったが、「驕らぬ子に…」と熱く願い、「一流」へのルール上を落伍せず奮進させたいと願う親心は、矛盾をはらんで揺れている。その調和はどういう形でとられてゆくのだろうか。それは重く共通な課題となって胸に残り惜しくも話し合いの会は幕を閉じた。——以下、当日、父兄の声を拾ってみた。

◎体育のバスケットは、体育館の広さ一ぱいを使って実効的訓練で動作も機敏、師弟渾然融和、整然と集団技能が練られ、参観が楽しかった。◎英語は呼吸がびったり合っているが、基礎のみに終らず研究向上心が育つ様発展部分もほしい。教科書からはみ出して生きた英語も必要ではないだろうか。◎高度な内容で情熱的にぐいぐいひっぱってゆく国語。生徒が自主的に学習し、先生の結論導入の仕方も仲々と感心したが、生徒間にあなた任せの風潮もあるので、おちこぼれつつある生徒にも発言させて全員授業参加出来る様にしてほしい。◎数学は生徒一人一人の力をしっかり把握して下さっているのも生徒とも相呼応した授業ふんいきがみられ、豊かな御経験に一層信頼を増した。公開授業はよそゆき。普段のままの授業がみたい。◎教育は全て学校にお任せしたい。◎教駒の輝かしい伝統の風土の中で、能力を最高に発揮し伸ばして頂きたい。◎中高6年の一貫教育教育は果して、どういう形で、具体的に実践されているのだろうか。◎こまかな問題は未解決に山積しているが、この研究会によって非常に父母側の認識は変り、学校との距離感はずっと縮った様に思った。中一編集委員

「年に一度は授業参観を」と希望する中二父兄の声と、多少迷惑ぎみな生徒達の声を追ってみ

たい。

#### 生徒の感想（物理，美術）

先生の教え方がいつもより丁寧でわかり易かった。その上広範囲にわたって進み方が速かった。

いつもは3人位の生徒指名の応答だが、今日はお母さん達にもわかるように、先生がやさしく授業して、10名位の指名でサービスしたのではないかな。いつもの授業は難しいところが多い。そのため真剣に聞きとろうとするので、今日とは静かさの度が違う。

美術の先生の授業のすすめ方は殆んど変わらない。でも皆の態度がいつもと変わっていないだろうかと考える方がおかしいでしょうね。

#### 父兄の感想

はじめて授業を参観させていただき感動しました。殊に英語は、クラス全員のすばらしい進歩に舌を巻きました。先生の懇切で、スピードのある説明質問に即答する生徒達。さすがに教駒。これからが楽しみです。社会は、廃藩置県後の明治初期政府の地租改定を江戸時代と対比させてわかり易く説明して頂き、私自身、大変興味深く聞かせていただきました。指名された生徒達の答も、本質的なものをよくとらえていたと思います。

今後も、年一度は是非こうした機会をお作りいただきたいと願っております。

美術の授業では、人物像をデザイン風に描きながら、先生からその人物について等のお話を聞くという授業でしたが、子供達の静かなこといつもこんなかしら、少しおとなし過ぎるなという感じでした。

物理の方は質問に答えるという形の授業運びでしたが、担任のせいかわ、リラックスしたムードも感じられて、まあ模範的な授業という気がしました。

ただ両方を通じて、何か醒めているというか、うすら寒い感じ。これは母親の特殊な感じ方なのか、男子校の雰囲気なのか、生徒の学習に対する熱気のようなものがあまり感じられないな、という気がしました。

美術の授業は、お話がおもしろく楽しく参観いたしました。お話の中味が可成り濃いので、生徒の集中力をさまたげないかと余計な心配がございました。別々にお時間がとれれば、と欲ばったことも考えました。

物理の授業は生徒が理解できているのか指名されても一人も分らないという答えがなく、よく聞いていて静かな風景でした。毎学期一度位は授業参観を希望します。

国語の学習については不慣れな古文の学習ではありましたが、かなり予習がされていて、真剣に取りくんでいるようで感心しました。私共の子供の家庭学習の様子が気になりました。

（中2 編集委員）

#### 先生と父母の話合いを顧みて

駒場にとって初めての試みの授業参観二時間を終え、一同図書室に会して懇談会が行なわれた。授業を担当された先生のお話の一端を紹介して、駒場生活の楽しさと学習への厳しさを垣間見

たい。

○国語は色々な科目の基礎になる言葉を扱う教科なので、深く切込みたいし、自分も考え生徒にも考えさせたい。授業中こちらからはしゃべらず、生徒が目で読み頭で考えて纏めた事をノートする等、生徒にできる丈やらせる事を主眼としている。従って一人一人積極的に立向ってくればよいが、子供自身国語に興味がない、勉強しないと具合が悪い。しかし3年生を普段見ていると、おとなしいし、よく学習している。積極的な発言は少いが、指名すると良い応えが返ってくるので悪い結果にはならないだろう。

○体育には身体を鍛えると同時に身体を通じて大事な物を育てる意義がある。例えばバレーボールでは、ボールを通じてお互い話し合い協力を前面に打出した授業を進めたい。ボールを言葉として意志の疎通ができる事を理解して欲しい。

○技術で菊の栽培を行ったが、狙いは晴耕雨読方式で、一方では学習に励み、こちらは自然に親しみ植物を相手に楽しみながら而も原理をおさえた勉強が大事。害虫の駆除でも、理科で学習した虫の習性から防禦法を考えるという観点で指導しているが、その辺の関連が仲々うまくいかない。

次に父母の意見質問と先生のお話から……。

○駒場の教育は自主性を重んじる。その重要性は分かるが、自主性はドリルなり色々な形で体系的に詰め込んでいかないと出てこないのではないか。

○子供に自主性が出ない場合にはどうしたらよいか。

○今迄の経験では、まわりでああしろこうしろと言っても本人がその気にならなければ恐らくどうにもならない。不親切なようだが。又もし問題があれば、生徒自身が言って来るように願いたい。

○自主性は教育なしには育たないが、いつ迄も二人三脚なり、両親に挟まれて進むのでは困る。子供に意欲がない場合、親と教師が話し合いの根源を突止め、その子供に向けたやり方を考えたい。

終りに、駒場の教育に是非望みたい事として、次のような発言があった。

○個々の学科の事は素質の有る子供達が立派な先生方に御指導頂いてこれ以上申し上げる事もないが将来子供達が仲間を蹴落して進む事なく、気宇を宏大に持ち協力し合い、社会の発展に寄与出来るよう、集団生活を通じてそんな面でも御指導願いたい。又子供達の真剣な学習態度と実社会へのとっかかりに断絶がないよう、社会人類への貢献という目標に焦点を合わせ、実社会とも関連して自覚づけるような指導も御配慮願いたい。例えば永い休暇の活用面でも先生方からも少し前へ出て頂きたい。

(中3 編集委員)

別表 6. カリキュラムに関するアンケート整理 (付1)

教科		国語	社会	数学	理科	保健	芸術	技術	外国語
調査項目									
[1] 教科書の使い方について				(補)		(補)			
1. 教科書だけ使用	2	2	0		2		1	○ (1部)	1
2. "以外市販の副教材	0	0	0		2		1		2
3. 副教材として自主製作のもの使用	6	1	1		5		3		1
一定しない	2				2:8				(市+自)1
教科書:副教材	3	自主教材<教科書			8:2				
質問をうける程度	5:1				1				
4. 教科書は全く使用しない	5:5	(補)0	(補)0		2				(補)
	(補)0				(補)1				
[2] 新指導要領について									
1. 改善されたと思われる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学・古典教材の強化</li> <li>目標が総合的なもの</li> <li>単に知識の注入に終わらないようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解にふれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像の導入</li> <li>高1のペクトル</li> <li>現代化が進んでいる</li> <li>教I6単位は適当</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学にスジを通している</li> <li>力学で回転電磁場がとられた</li> <li>生物はより体系的</li> <li>3単位で終る生徒の配臈がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健</li> <li>生活中心にかかわる</li> <li>学校教育を通して行うこと</li> </ul>	音楽			<ul style="list-style-type: none"> <li>負担となつた</li> </ul>
2. 改善されていないと思われる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材が総花的</li> <li>学年ごと内容が明示されていない</li> <li>文語文法指導の選者が伸びられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化史偏向</li> <li>教育内容に乏しい</li> <li>公民分などから社会と広げる</li> <li>配列は非科学的</li> <li>社会的認識の方向導入は改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体幾何真偽</li> <li>幾何教材の不統一</li> <li>中高の非連続</li> <li>整理統合が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地学の分け方</li> <li>内容の分離が体系化をさまたげる</li> <li>中2第2分野精選されていない</li> <li>生物1部は実験が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳的指導が多い</li> </ul>	魅力ある面に乏しい			<ul style="list-style-type: none"> <li>易へ向う傾向</li> </ul>
3. 本校が実験学校として指導要領改善にはたすことができる点があるか									

できる できない ？	2 2 4	3 1 (補)	(補)	0 1(補)	(補)			0 4 2 (補)	0 1(補)
4. 全体として前回よりも前進 したと思うか 思 う 思 わ な い ？	3 1 4(補)	0 2 (補)	(補)	4 2 (補)	保健 体育			4 2 (補)	0 4 2 (補)
[3] 教材の自主編成について 1. 本校では教材の自主編成が 必要である (理由)ア. 生徒の質が高い 1. 実験学校としての 責任	3 2 1 (補)	4 2 2 (補)	3 2 2 (補)	7 3(△1) 5 (補)	(補)			3 2 1	3 2 1
2. 自主編成はやりたいができ ない (理由)イ. 勤務条件 ・研究費不十分 ・校内の研究組織不整 備 ・校外の研究組織との 連絡不十分	4, △2 4, △1 2, △2 3, △1 1, △2 (補)	2, 1	2 1 ×1 ×1 ○1, ×1 ○1, ×1	2 4 3 1 (補)	(補)			2 4 3 1 (補)	1 1
3. 今後本校としては教材の自 主編成を学校としてとりあげ るべきである ○ △ ×	2+1(バード)	○ 3		○ 5				○ 5	3
○の場合、その方向 A 対象について ア. 進んだ生徒を対象 イ. 一般の生徒 B 指導領との関連 ア. フクをこえてよい	2 1 2 3	3 1 3 1 3	1 2 3	1 6 7	◎			1 6 7	○ 3

<p>C 研究組織について ア. 本校教官のみ イ. 外部との連絡</p>	<p>1 2 (補)</p>	<p>2 1 (補)</p>	<p>△ 1 ○2, △1 (補)</p>	<p>1 4 (補)</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>2</p>
<p>[4] 6ヶ年一貫カリキュラムについて 問題点 ア. 理念をもっていない イ. 高校で1学級入れる ウ. 教室内の協力がえられな い エ. 勤務条件が無理</p>	<p>○3, △1 △3 △3 ○1, △2 (補)</p>	<p>2 1 4 (補)</p>	<p>○ 4 ○2, △1 ○1, ×1 ○2 (補)</p>	<p>1 4 (補)</p>	<p>(補)</p>	<p>◎</p>	<p>1 やるべきこと 1</p>